

—関連施設だより—

“足立区から助産施設の灯を消さない”を目指して

芦田 光則

社会福祉法人勝楽堂病院

Aim for the continuous obstetric care in Adachi region

Mitsunori Ashida

Social Welfare Corporation Shorakudo Hospital

勝楽堂病院は、昭和11年に、現地に亡父が芦田医院を設立したことに端を発し、戦火も免れ、昭和22年に芦田病院、昭和25年に財団法人勝楽堂病院に、そして昭和27年5月に社会福祉法人勝楽堂病院と改組し、現在に至っており、本年度創立80年の歴史を有しております。

病院は、平成12年10月に、隣接地に新築・移転しました。現在は療養病床53床、産科病床12床を含む105床のケア・ミックス型の病院で、小規模ですが、足立区で唯一の助産施設を有する地上3階、地下1階の病院で、診療科は、内科・外科・産婦人科・小児科など11科があり、そのほとんどの科は、日本医科大学からの非常勤医師により、外来・入院診療や当直業務を支えて戴いております。

本院があります足立区千住は、隅田川と荒川に挟まれた地域で、昔ながらの路地や蔵・家屋が残っており、下町情緒が豊に残り、物価も安く、住み良い街です。

芭蕉の「奥の細道」の矢立ての地であり、東北・常磐方面への交通の要衝で、現在も北千住駅は、JR常磐線・東武線・メトロ日比谷線・千代田線・つくばエクスプレス線やバス路線も多数乗り入れており、一日の乗降客数では日本でも有数です。

余談ですが、本誌の編集主幹であられる内田英二教授の御実家も北千住にあります。



連絡先：芦田光則 〒120-0032 東京都足立区千住柳町5の1 社会福祉法人勝楽堂病院

URL：<http://www.shorakudo-hp.or.jp>

E-mail: syourakudou@plum.ocn.ne.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

当院と日本医科大学との関連は長く、昭和27年に、産婦人科へ武田勉先生が派遣されたのを機に、耳鼻科（現在中止）・内科（現在は非常勤）・小児科などからも派遣していただいております、日本医科大学関連医療施設のNO.15にリストアップされております。

常勤医師は、内科（3名）・外科（1名）・産婦人科（1名）・小児科（3名）・整形外科（1名）の9名ですが、学閥もなく、和気藹々とした中で、勉学に時に遊学に励まれております。

当院は、社会福祉法人として、生計困難者に対する無料・低額診療や地域の社会福祉法人施設などと連携し、社会的弱者への医学的支援などを行うとともに、「患者様に優しく、安心・安全な医療の提供」をモットーとして、その充実に力を注いでおります。

当院の産婦人科は、昭和23年に小畑武先生（慶大卒）が初代部長に就任されたのが始まりで、昭和27年に武田勉先生が真柄産婦人科教室より派遣されたのを機に、藤沢肇先生と続き、昭和36年に中村純一先生、昭和41年に須藤董穂先生が赴任され、最盛期を迎え、医局員も6~7名を有し、分娩数も年間750件以上を数えましたが、昭和48年ごろをピークに全国的に出生率が低下し、当院の分娩数も徐々に減少したことや産婦人科への入局者の減少もあり、現在は常勤医師1名と10名前後の日本医科大学医局からの非常勤医師の御尽力により、2名体制の外来・病棟診療と当直業務をして頂いており、分娩数も年間240件前後をキープしております。

最近、近隣の産婦人科病院の休院があり、当院の分娩数の増加が予測され、ますますハードな勤務になると思われれます。（足立区には3~4のクリニック以外に助産施設はありません。千住地区では、当院以外ありません。）

「足立区からの助産施設の灯を消さない」ように、常勤医や当直医の確保などに精一杯努力を続けておりますが、一施設の力には限度があります。

現在でも、竹下俊行教授には大変な御配慮を戴いておりますが、今後とも、ますますのご支援を紙面をお借りしお願い申し上げます。

また、当院は付属病院より至近の距離にありますし、病病連携、特に病後連携にも力を注入しておりますので、今後とも宜しく願い申し上げます。

（受付：平成28年5月25日）